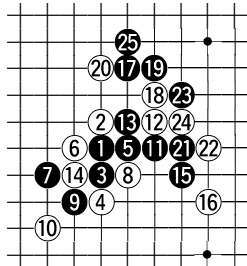


松月定石の一研究 (3)

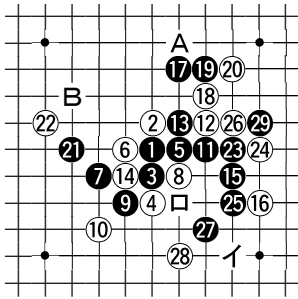
九段 河村典彦

【第21図】白18の変化。この18には当然黒19と形良く押さえる。



同時にミセ手にもなっており、白の防ぎは限られる。白20と防ぐのは、黒21と慎重に四ノビを打ってから黒23、25で勝ちとなる。なお、黒21で23の両ミセにすると、白21のノリ手防ぎであつたと言ふことになるので要注意。

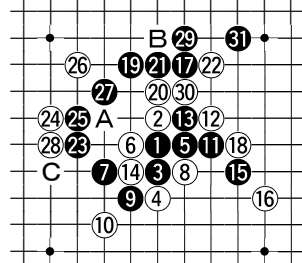
【第22図】ということ、白20は外止めの方が強防だが、これには



一本黒21と引いて様子を伺うのが良い。白22止めなら、黒23、25を利かし（白24は絶対）、黒27のミセ手が決め手になる。黒29とこんな所に打つのが最後の決め手で、以下Aまたはイロまでとなる。17でできた剣先をしつこく利用するのがミソである。
白22を反対なら、いつものように黒23をBと含んで以下容易だ

ろう。

第23図

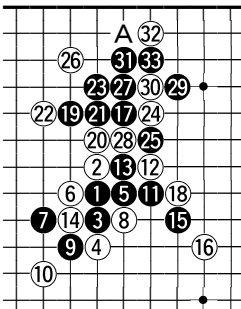


【第23図】続いて白18の防ぎに行こう。この防ぎは一見上辺が広くて簡単に勝てそうだが、実は簡単ではない。ここは大きく19と飛んで、21と

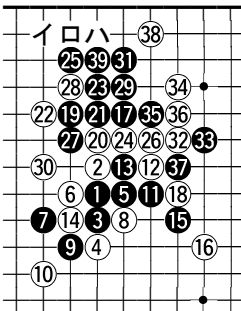
引いて行くしかなさそうだ。白22の止めなら、手拍子で黒30と四ノビをしてしまいうだが、ここはこらえて23から左辺をいじるのが良い。30の四ノビをしない理由は、交換に白石が29に来てしまうと厄介だからである。実際黒29からわざとノリ手にさせてしまつた方がわかりやすい。黒31まで以下A

またはBである。なお、白28を反対なら黒Cまで。
【第24・25図】白22は反対止めの方が強防となるが、これには黒23とフクミ手を打つのが常套手段。左に主な変化を2図載せた。上図

第24図



第25図

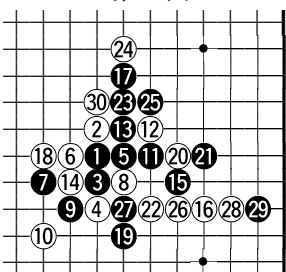


は白24と止めた場合で、その時には黒25から27、29が良いだろう。白32を反対ならすぐ四追いがあるのでノリ手を心配する必要がない。下図も白24の変化で、これにはわざとノリ手になるように黒25と引くのが思い切った手だ。当然白26とノラれるが、黒27と押さえ、

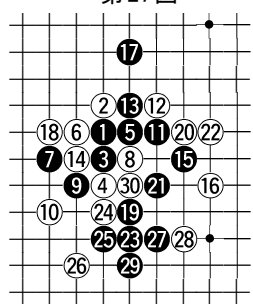
続けて黒29と引けるのが味良い一手となる。最後は四三をあえて打たず、黒39と引いてイロハで収束する。

【第26・27図】ところが、白18と先に一本引いてから20と防ぐのが呼応した防ぎで、この防ぎで黒は困ってしまう。黒19の石を利用して黒21から簡単に勝てるように見えるが、黒25の時に四ノビで長

第26図



第27図

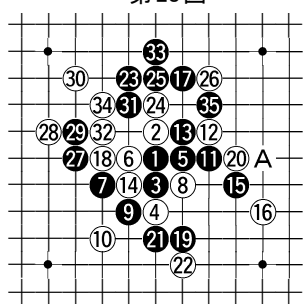


連筋にされる抵抗がある。白30までとなつては失敗だ。黒は打ち替えが必要となる。さりとて、黒21が利くので第27図のように下辺に活路を求めても、勝てないようだ。例えば黒23のトビから攻める手も有力だが、最後の黒29の時に白30とノリ手で止める手が強く、どうしても勝てない。こうなつてみると、白18と20がうまく上下を止めており、どうやら白としても最強防のようだ。

結局黒21からの勝ちがわからずいろいろ調べてみた。高川さんの研究では一応勝ちまで出されていたが、かなり呼珠を打っており、変化が膨大になるようなのでできるだけ簡明な勝ち方がないか調べ、ようやくたどりついたのが次の図である。

【第28図】まずは一本黒21と下に三を引く。今のタイミングなら白22の止めはやむを得ない。そうしておいてから黒23、25と引く。

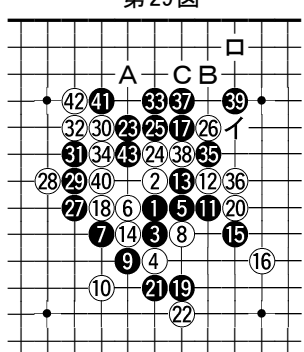
第28図



くのは黒勝ちになる。それはご自身で確認してほしい。さて、白30と焦点を止めるのは、黒31を利かしてから黒33と引き、続けて35に引けば両勝ちとなる。

【第29図】白30と止める方がノリ手を利かすことができるので、強い防ぎである。黒31とノリ手を防いでから黒33、35と打つのがやはり筋である。またここでも38の四ノビは打たない。ここは逆に白に打たせる黒37、39で解決する。白40で長連筋となるが、黒41と止めた時点で白に適当な止めが見当たらない。白42でも黒43に入っておいて以下Aまたはイロとなる。42で43が共通の防ぎとなるが、その場合は黒B、Cと打って勝ちとなる。

第29図



これを左止めならAの利きがあるので簡単だ。したがって、白は26止めが必然である。で、ここからが苦心の手順であるのだが、黒27、29とミセ手を打つのがうまい。最初に黒21と引いておいた訳は、黒27がもし三なら、白は29と伸びてから28と防ぐ手段がある。しかし、この場合27が四なのでその暇がない。また、白が先に(例えば白26で)29を打ってお